

第8回北児島ネットシンポジウム

平成30年7月5日(木)

14:00~16:00

参加者 119名

1、開会挨拶

庵谷会長より

北児島地区の成り立ちと北児島ネットのシンポジウムについて説明

2、シンポジウム

テーマ 『北児島地域における防災について ~私たちの町で暮らし続けるために~』

岡山市 危機管理室

「 防災について 」

- ①岡山市の特徴
- ②岡山の概要 6千年前からの埋め立ての状況を目で見る
- ③災害対策基本法と地域防災計画 岡山市と住民の動きについて
- ④南海トラフ地震

平成23年12月に東海・東南海・南海地震についての想定震源域公表

プレート境界型地震で一定の頻度で発生 (1605~1854年までは一度に発生)

岡山での予想 震度6 津波2.6M(最大)

- ⑤岡山市では平成30年4月データで43%の確率で発生の恐れ
必ず各個人で備えをするよう意識を変えていきましょう
- ⑥岡山地域周辺の断層について
現在活断層がないとされている地域でも今まで地震が発生している。
- ⑦ 死者400名 全棟倒壊4400
- ⑧南海トラフ巨大地震時 地震・揺れまで50~60秒あるかもしれない
その時間に何ができるか? ⇒ タンスや倒れそうなものから逃げる
津波は到達時間 2時間50分あるかもしれない
その時間に何ができるか? ⇒ 津波が来ない場所まで逃げる
震度分部図
- ⑨地震が起きたらどうするか?
屋内 けがをしないようにスリッパを準備して寝る
照明器具や家具を固定する
津波避難
●地震の揺れの程度で自ら判断しない
津波がないという特説を信じない 避難の際には車は使わない と奥よりも高くへ
引き潮がなくても
●避難袋は大人2人×7日分
自助」 自分の身は自分で守り家族の身は家族で守る

「防災力」は「想像力」いつどこで起きるかわからない。

倉敷市防災危機管理室

大阪の地震 塀が倒れた事例から確認することになった

熊本の地震 救援物資が必要な方に届かなかった 物資は届いたが届ける人がいなかった
スムーズな避難所とそうでないところにはっきり分かれが
(コミュニティ力の違い 地域の横のつながりがある地域はできた)
自主防災組織が力をつけることが必要

鳥取の地震 震度6 屋根瓦がたくさん壊れた。壊れてない家との差は工法の差

郷内地区： 自助が重要 津波は来ない 土砂災害の危険あり 内水反乱の危険
「正しく恐れる」 どのような時に避難するか 避難所は郷内公民館

届け出避難所 倉敷市 170 か所 (地域の集会所などを災害時に使用。地域の自主防災組織が運営) 甲板 24 食、水 24 本毛布 10 枚を配備

※ 災害の種類別に避難所を検討する。

問題提起 兵庫県佐用町 H24 年 8 月洪水で内水反乱で 8 名死亡

原因：水があふれて道路と用水路の区別がつかなかった

【活動報告：各地区の防災対策について】

①興除地区 消防士：業務としては歯がゆい思いをすることも多い

毎年 1 回、夏に防災キャンプを実施 興除中学校区 1 2 町内 2500 世帯 東睦小学校が第一避難所
各町内 20 人づつ 300 人規模 炊き出し担当地区は栄養委員が中心
地域全体をまとめるためにコミュニティ事務局にも協力要請

視点 1 自助 個人や家庭を中心にした防災力をつけるための訓練

視点 2 平時の訓練で非常時に落ち着いて行動できる

興除中学校区の防災ミーティング：避難所運営についてのみ検討

②藤田地区

80%の確率で干拓地である藤田で系統的に対策や訓練・備蓄を勧めています。

平成 29 年自主防災会を設置。各地区でアンケートを聴取

平成 29 年 9 月 10 日防災訓練を実施。平成 30 年 2 月神戸の防災未来センターへ研修

平成 30 年 3 月に継続した防災訓練実施

問題提起：干拓地で海拔 0 メートル。地震の時には児島湾は 4 M 下がると言われている。津波が来るまで 2 時間あるから逃げるようにと言われているが、堤防を越えてすぐに水が来る可能性がある。水は引かない。避難場所は 2 号線の北が多い。本当に逃げる事ができるのか。堤防を補強すると言うがいつまでに完成するかも不明。

③灘崎地区

公民館の視点でみた防災について

公民館としての把握は、小学校区4地域 年1回程度の防災活動・訓練を実施している。自主防災組織の結成率はそれほど高くない（岡山市・県全体と比較して）

七区・西高崎・彦崎を含めて災害への対応が干拓地に比較してそれぞれである。干拓地・山間地でも全く違うため灘崎全体として防災を統一して行うのは困難。ただ避難所生活の視点では同じである事から災害時に各地区で警報から避難までどう行動するかが重要。

平成27年に住民アンケートを聴取。分析結果として
阪神大震災時に消防署が作成した防災ゲームを使って子供に対して防災意識を育てるようになっている。子供たちが防災の意識を持てば各家庭で親にも浸透するだろうと予想。

「地域づくり部会」で中学生を対象に実施。今後もこの方法を継続予定で企画している。
平成30年6月23日灘崎小学校で小学4年生に防災ゲームを開始。親も後ろで見学した。

灘崎すべての地区で洪水・土砂災害とそれぞれ備える部分は違うが、防災訓練を行うべく、各町内会と連携して行きたい。

「復興事前準備」の意識が重要

3、質疑応答